

グループホーム のぞみ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ(1階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和1年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設してから15年目を迎えました。個別支援は継続し取り組んでいる支援の一つですが、今年も外食やあじさい園への外出、買い物やドライブなど個別に対応した支援を行っております。また、今年は1名の方の看取りをさせて頂きました。ご家族の、「のぞみに戻って最期を迎えさせたい」との想いを受け、多職種との連携、始めて看取り介護を経験するスタッフへの指導など、長く勤務しているスタッフも改めて、最期までその方らしく、尊厳を持ってケアをさせて頂くことへの大切さを学ぶことができました。また、お馴染みの猫たち4匹も毎日利用者様の癒しとなっております。入居希望の方々は、「ここに猫がいるので決めました」と言って下さるかたも多く、なかなかの営業マンっぷりを発揮してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム のぞみ」は、バス停から徒歩で5分程の函館市郊外の静かな住宅地に立地している。近くにはコンビニエンスストアやドラッグストア、自然豊かな昭和公園などもあり生活の利便性が高い事業所である。共用空間は開放感のある造りで、独立した居間と食堂には大きな窓から明るい日差しが注ぎ、壁には大型のジグソーパズルや利用者と一緒に制作した季節の装飾がさりげなく飾られている。地域の夏祭りや新年会に利用者と一緒に参加して顔馴染みの知人と挨拶を交わしたり、近隣住民が漬物作りで事業所を訪れるなど日常的に地域の方々と交流を深めている。民謡や三味線、折り紙などのボランティア訪問もあり、利用者と一緒に作品作りや演奏を楽しんでいる。施設長や管理者は、職員の意見や提案を日々の運営やケアに反映させると共に、テーマの設定や資料作成段階から担当職員を中心にした勉強会を毎月実施するなど、職員教育に熱心に取り組み資質の向上を図っている。毎月、各利用者の介護計画に沿って職員間で意見交換して評価を行い、一人ひとりの利用者に応じた細やかなケアを行いながら本人の意向に沿った個別支援に取り組んでいる。施設長や管理者を中心に全職員で利用者と家族に真摯に向き合い、それぞれの利用者が明るく穏やかな日々を過ごせるように温かな支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一しケアに望めるよう取り組んでいる。	基本理念6項目の中に、「地域との交流」という地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。職員採用時に説明したり、ユニット会議などで再確認しながら全職員で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りや新年会に参加させて頂くなどし、交流の機会を作っている。	民謡や三味線のボランティアが毎月来訪したり、折り紙のボランティアが年2回訪れて利用者と作品作りを楽しんでいる。近隣の方が漬物を作ってくれたり、花の苗の差し入れを受けることもある。専門学校の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会で行われる夏祭りや新年会に参加させて頂くことで認知症の方への理解を得られているように思われる。又、外出の機会を多く持つことで、地域の方々とのふれあいを通し認知症というものを知って頂く機会を持っているのではないかと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる運営推進会議では、町内会長様や地域包括支援センター様にも参加して頂き、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かせるよう職員全体で取り組んでいる。ご家族の参加をもう少し多くしていきたい。	緊急・事故対応マニュアルやインフルエンザなどをテーマに2か月ごとに開催している。テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見も事前に聞き取り会議に活かしていきたいと考えている。テーマの資料送付も検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	福祉事務所の担当者と利用者の状況を伝えながら情報交換したり、利用者や家族対応などについて市役所に相談することもある。地域包括支援センター主催の地震災害時の報告会に参加し、災害時の対応などを再確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう毎月行われるユニット会議内や2ヶ月毎に行われる運営推進会議内では地域の方々にも理解をして頂けるようお話をさせて頂くなど取り組んでいる。又、研修時には、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束廃止マニュアルを整備している。ユニット会議で適切な言葉遣いについて学び、日々のケアの中で職員同士で注意を促すこともある。今後も「禁止の対象となる具体的な行為」を再確認しながら、更に理解を深めていきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。又、2ヶ月ごとの運営推進会議内でも身体拘束にあたる行為について意見交換を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在においては制度を活用される方がいない状況であるが、権利擁護や成年後見制度についての研修など機会があれば積極的に参加をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には入居者様の様子を報告すると共に、ご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。	家族から意見や要望があれば全職員で解決に向けて話し合い、家族の意向に沿った対応が可能な限りできるように取り組んでいる。家族からの意見や要望は個別の連絡ノートに記載している。今後は職員の気付きも記録に残し、家族の些細な思いの把握に活かしていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。	施設長や管理者は、普段から積極的に職員に話しかけ、意見や提案を聞き取っている。利用者対応で課題があれば、より良いケアができるように職員間で意見交換している。職員は、毎月の勉強会を交代で担当して学びを深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、代表者に報告している。また、希望する研修などに行けるよう配慮し各職員が意欲的に働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識の向上に努めている。研修後はユニット会議等でフィードバックし情報を共有できるようにしている。また、毎月のユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加することで同業者との交流する機会がある。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話を伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつの関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、いつでも出来る体制で、ご本人が行きたい場所(買い物、外食、自宅)には、個別に支援している。	地域の夏祭りや新年会で知人に会ったり、近所に住んでいた友人が訪ねて来る利用者もいる。職員は、馴染みの美容室や自宅などへの送迎を支援している。家族と一緒に、外食や墓参りに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまで行える、レクリエーションや、他ユニットとの交流の場を作ったり、お互いに出来る事を行う事で支え合って生活しています。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、ほぼ亡くなった時ではあるが、その後にはボランティア(折り紙教室)で来て下さるご家族もいらっしゃる。また、長期入院の為、契約終了となった時は、お見舞いに行ったり本人の経過を聞いたりし、ご家族との関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるよう努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討しています。	会話や表情、今までの本人との関わりの中から思いや意向を把握している。センター方式を活用して定期的に更新しているが、B-3シートは利用開始時のままで更新は行われていない。	趣味や嗜好などの現状を具体的にB-3シートに追記し、書類も定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。	毎月実施している介護計画の課題に沿った評価を基に、6か月ごとに計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。介護計画に沿って日々の記録に分かりやすく記入できるように、サービス内容の具体化も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡・受診・家族、の各ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会等の季節行事に参加したり、買い物に行ったり、施設にて定期的に消防士立会いのもと、避難訓練を行い参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科往診や、2週間ごとの皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。	かかりつけ医や専門医を受診する時は、殆ど事業所で支援して本人の状況を主治医に伝えている。受診記録は個別の連絡ノートに記入しているが、分かりやすく時系列に記入したいと考えている。	

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者様の状態などを確認し、早期退院へ向けた相談などをご家族も含め行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心し充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備している。利用開始時に事業所として出来得る対応について説明し、看取りに関する家族の意向を確認している。利用者の体調変化に応じて再度方針を話し合い、家族の希望に応じて可能な限り看取りを行っている。看取りの外部研修に参加し、内部で報告研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。AEDの設置(2号館)も行ってます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防立ち合いのもと定期的に避難訓練を行っていますが、水害等に対する施設内訓練を行い、災害や火災時の緊急連絡体制を都度確認しマニュアルと合わせ日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。	法人事業所合同で、年2回、昼夜を想定した火災や水害、地震などの避難訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得ている。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練も計画的に受講しているが、地域との協力体制には課題も残されている。	運営推進会議などで地域との協力体制を確認し、避難訓練にも近隣住民の参加を得られるような働きかけを期待したい。また、地震時のケア別の対応について、職員間で話し合うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援させていただいております。	礼節を重んじ、利用者の呼び方も家族の意向を確認しながら決めている。記録類や書類の取り扱いと管理に配慮し、申し送り時は実名を使わず、数字や花の名に置き換えて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるよう日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行ったり、化粧のお手伝いをさせて頂いたりなど、おしゃれや身だしなみへの支援を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。	職員は利用者の嗜好や機能・病気を考慮した献立を作成し、利用者は食材の皮むきや味付けを担当している。職員と一緒におやつ作りをして出来立てを味わったり、個別対応で外食に出かけて焼き肉など好物を食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや誘導することで、日中はほとんどの利用者は布下着やパッドを使用して心地よく過ごしている。夜間は睡眠を優先し、大きめのパッドやポータブルトイレを使用する利用者もいるが、可能な限り昼夜ともトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。又、利用者の体調に合わせ、無理せず入浴して頂いている。	毎日入浴が可能で、週に複数回の入浴を支援している。特殊浴槽も設置しており、重度の方も湯船に浸かることが出来る。入浴を拒む方は、前日から入浴につながる会話を心がけている。入浴剤を使用したり、職員と会話しながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の「与薬一覧表」をファイルし、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を企画し、ご家族にも参加をして頂いている。又、スタッフとの買い物や、外出、町内会の催し物への参加、散歩に行ったりと活気のある生活を送って頂けるよう支援を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時(買い物、散歩、外食)には出来るだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。どうしても希望時に外出できない時は、本人にその旨を説明し、外出の日を決めて理解、納得して頂けるよう心掛けている。	花見や紅葉狩り、初詣などの年間外出を企画してドライブを楽しんでいる。天気の良い日は敷地内で日光浴をしながらお茶を飲んだり、家庭菜園の手入れや地域内を散歩している。受診帰りの買い物なども日常的に行いながら、気軽な外出で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望がある場合はご家族と相談の上、お金を所持して頂いている。買い物の際には、商品の選択やレジでの支払いなどの見守りと一部支援を行いながら、できるだけ本人に行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、取次の支援や見守りを行いながら、いつでも自由に電話を使用して頂けるよう支援を行っている。手紙に関しては現在のところ郵送の希望者はいないが、ホームに届いた手紙や年賀状などは希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫と一緒にしたり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。	温度や湿度が適切に管理され、採光にも優れたリビングはゆったりとした広さがある。大型のソファを何個も配置したり、畳敷きの小上がりがあり思い思いの場所でゆっくりと寛げるように工夫している。装飾は利用者のスナップ写真と季節感を醸し出す物にとどめ、品良くすっきりとまとめて、落ち着いた暮らせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室や事務所にて過ごして頂いている。また、食卓での座席や、リビングソファで過ごして頂く際には、利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。	各居室にはクローゼットが設置されており、衣類や寝具、買い置きの品を収納して便利に使用している。使い慣れたタンスやソファ、ぬいぐるみ、以前の趣味の物を持ち込んで一人ひとり個性豊かな部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。		

グループホーム のぞみ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ(2階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和1年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設してから15年目を迎えました。個別支援は継続し取り組んでいる支援の一つですが、今年も外食やあじさい園への外出、買い物やドライブなど個別に対応した支援を行っております。また、今年は1名の方の看取りをさせて頂きました。ご家族の、「のぞみに戻って最期を迎えさせたい」との想いを受け、多職種との連携、始めて看取り介護を経験するスタッフへの指導など、長く勤務しているスタッフも改めて、最期までその方らしく、尊厳を持ってケアをさせて頂くことへの大切さを学ぶことができました。また、お馴染みの猫たち4匹も毎日利用者様の癒しとなっております。入居希望の方々は、「ここに猫がいるので決めました」と言って下さるかたも多く、なかなかの営業マンっぷりを発揮してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	簡略化し明確に理念を職員の目の届くところに掲示し、ユニット会議で話し合い実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しものの「夏祭り」「新年会」などに参加させていただいたり、七夕には子供達が訪問してくださる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会の方に参加を促し、情報交換を行っている。近隣の方々とは挨拶や会話により馴染みの関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・町内会の方などに参加していただき、事業所の運営、行事、活動状況の報告をプロジェクターを使用し見やすくわかりやすくし、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは介護保険更新時や事故報告書、の相談などでアドバイスをいただいている。運営に関してのなやみ事などを都度、相談し連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様には身体拘束廃止宣言を伝え同意を得ている。ユニット会議の中で拘束廃止委員による「拘束による利用者への弊害について」を学び、抑圧感のない自由な暮らしを支援することが出来るよう支援している。また、2ヶ月に1回、運営推進会議の開催時に合わせ、身体拘束廃止委員会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員による、2カ月に1度の会議を行い入居者様の現状を見直し、虐待に当たる行為が無いか話し合いを行っている。また、研修会に参加しユニット会議にて全職員に報告を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、その後ユニット会議の場で研修報告、勉強会を行い職員全員が理解できるように取り組んでいる。現在、必要とされている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。又、事前にご家族やご本人にホーム内を見学していただき、理解納得して頂けるように説明を行っている。また内容に改定があった時は書面などでもお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には日常の生活の様子を伝え、意見や要望を伺い、表出された課題はユニット会議等で検討し、お便りと共に取り組み内容を報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや、ユニット会議で職員の意見や提案を聞く場を設け、それが反映できるように会議にて話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議やユニット会議で意見や提案を聞き、運営者に提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修会や外部での研修会に参加できるよう勤務表を作成している。また働きながら資格を取得できるように育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会に所属し、研修会、勉強会、交流会などに積極的に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には状況に合わせ、ご家族様に事前にホームを見学していただき、居室内も馴染みのものを持ってきていただいている。また、出来る限りご本人と話をする機会を設け、現在の気持ち、今後の希望など聞き、安心して入居を迎えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には状況に合わせ面談を行い、入居に至るまでの経緯や、ご家族の不安や希望などを聞く機会を設け、ご家族が安心して入居の日を迎えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談窓口を決めて時間を作り対応し、本人が必要とするサービスがあれば助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	趣味や家事も共に教え合うなど楽しみを共有できる場作りを行い関係を築けるようにしている。人生の先輩として私生活のアドバイスをもらったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問時、案内や挨拶の徹底、明るい雰囲気づくりを行っており湯茶を囲み入居者・職員と団欒されている。又、クリスマス会、敬老会の参加を呼びかけ入居者、ご家族、職員と楽しむ場作りをしている。受診後の結果報告も行い、共に支えていく関係を心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のコミュニケーションにて、入居者様の希望を聞き、馴染みの場所や美容室へ出掛けたり馴染みの方との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場作りを行い、トランプや工作など楽しみの場を提供している。入居者様一人ひとりの性格を把握し孤立することなく自由に過ごすことが出来るよう場の雰囲気作りを行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事契約終了後でも、ご家族が相談しやすいような雰囲気、なじみの関係を継続できるように常日頃注意をしている。また、退所されたご家族が年に4回、折り紙教室のボランティアで来所して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴を把握し、その人らしく暮らし続けるための支援に向け、職員は表情を見逃さず思いや希望を汲み取り、家族からの情報を得ながら対応し、ケアプランにも活用していく事ができるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具などは馴染みのあるものを持ってきていただいたり、ご家族へ生活環境を聞いたりし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの排泄、食事、水分、睡眠等を把握できるよう職員は入居者様の行動や表情・会話などを観察し、それを元にアセスメントを行っている。身体状況においても小さな変化も見逃さないようにし体調を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一部センター方式の介護計画は、アセスメントシートの記録を基に課題と改善について話し合い、家族の意向とかかりつけ医の意見を反映し、計画作成担当者が現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを活用し24時間の記録を行っている。入居者様の受診状況などはノートを活用し情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々の体調に合わせ、希望に沿い支援を行っている。嗜好に合わせた食事の提供や、買い物支援、他病院への受診の支援等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防士立会いのもと避難訓練を行なっている。時々知人の来所などあり、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は従来のかかりつけ医を受診し、情報が得られる関係を築き、送迎は事業所が対応している。協力医の定期的な往診があり、協力医療機関看護師が健康管理をしている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時には24時間連絡可能な協力医療機関も確保しており、いつでも相談できる状況である。必要に応じ訪問看護が利用できるように準備は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、本人のホームでの状態等情報を医療機関に提供している。入院中には定期的な訪問を行い、本人の不安な気持ちを軽減できるよう努めている。また、家族、医療機関と情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実施を示しており、事業所としての看取りの指針を明確にし、家族の同を得ている。夜間及び緊急時の対応し、重度化に伴い家族の向と再確認を実施し、チームで方針を共有して支援できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。ユニット会議等の場で勉強会を実施し職員の知識向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定の実施している。通報訓練・避難誘導訓練、水害訓練では、隣接の2号館と協力体制をとりながらの訓練など、消防署のアドバイスを受けている。また、研修に参加しマニュアルの見直しなどを行っている。備蓄の整備も定期的に行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣いや対応に配慮している。書類は一定の場所に保管し、責任ある取扱いと管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から買い物等、行きたい場所を聞き、行事を企画したり外出支援を行っている。また日常での家事支援や余暇活動等の場づくりにおいても、個々に合わせた活動を提供できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者の体調や希望等に合わせ本人のペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様に合わせ、その日着たい服を選択しやすいように声掛けしたり、行事や外出時に職員も手伝い化粧をする等しておしゃれを楽しめるよう努めている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好を反映し、各ユニットごとに調理をしている。調理の下ごしらえや後片付けを一緒にするなど楽しく食事できるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事においては栄養バランスを考え献立表を作成しており、個々によって食事量の差はあるが栄養バランスの取れた食事が出来るよう代替品などを使いながら支援している。水分量については、毎日摂取量をチェックしながら十分な水分の飲用を促し、工夫している。また毎月1回の体重測定を行い、体重の増減を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄にて、衛生保持に努め異変時は歯科医院の受診・往診にて対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握しトイレでの排泄に取り組んでいる。失禁時も、本人の自尊心に配慮しながら、さりげないケアを実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人ひとりの排便間隔を把握し、心地よく排便が出来るように医師に相談し下剤の調整を行っている。献立の中でも食物繊維や乳製品などを取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう常に準備している。拒否傾向の時は足浴やシャワー浴を取り入れたり、タイミングを見て声がけするなど工夫をしている。入浴が好きな方は1時間程ゆっくりと入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や、希望に応じていつでも休息できるようにしている。本人の希望に沿ってお昼寝が出来るような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服薬変更時の作用・副作用の把握、確認を行っている。また薬の管理も入居者様の手が及ばない場所に保管し、紛失・誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の能力に合わせ、役割等を行って頂いている。また、あたたかい日などは職員の付き添いにて外の散歩や、定期的な買物にて楽しみの提供を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に帰りたいなどのかなえる事が出来ない希望などをご本人と話しをして気分を変えてもらえるよう支援している。他、買い物等の支援は病院の帰りに行っている。最近では普段交流することの出来ないマレーシア人の方との交流の場に参加した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご自身で所持されていた事もあったが、物盗られ妄想や入居者同士の金銭トラブルに繋がった事が多かった為、現在は施設で管理をし、希望に応じてなるべく自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、自ら電話や手紙のやり取りを出来る方がいないが、荷物などが届いた時にお礼の電話をスタッフと一緒にかけたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中においては、窓からの日差しの調整や声掛け時の職員の声のトーン・テレビの音量、掃除機や食器を扱う際など、入居者にとって不快と感じる音や光などに配慮するよう努めている。家事作業の手伝いや季節にちなんだ作り物等を日々の活動に取り入れしたり、製作した作品を飾り、入居者に生活感や季節を感じていただけるよう、工夫した共有空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や気分転換したい時などに、利用していただける様、少し離れた場所にソファを設置している。また食卓にて団欒できるよう、入居者が自由に過ごせる空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使う物は家族に持ってきて頂き使用されている。以前より使用していた物のため自分の部屋だと認識ができ落ち着いた生活ができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内廊下・脱衣所・トイレには手すりが設置されており、歩行不安定な方に使用している。また居室の入り口には「表札」を置き、自分の部屋を見つけやすいよう工夫している。またトイレのドアには大きな文字で「トイレ」と表記することで、自ら探す事が出来るようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームのぞみ

作成日：令和 1年 11月 9日

市町村受理日：令和 1年 11月 21日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	センター方式のアセスメントシートのB-3について、入所時の聞き取り以降行っていない。利用者様の日常を知るうえで最も必要なアセスメントシートではないか。	・職員全体でB-3シートの大切さを知る。 ・全員のB-3シートの見直しを行う。	・ユニット会議の場でB-3シートについての勉強会を行う。 ・ケアプラン更新の有無に関わらずB-3シートの見直しを行い、ケアプランの変更が必要な場合は更新しケアを行っていく。	6ヶ月
2	35	・地域との交流に関して、行事などでの交流はあるが避難訓練など、災害に関する取り組みの部分で地域との繋がりが薄い。 ・近隣の方々は訓練の内容がわからないため参加を躊躇されているのではないか。	近隣の方々に避難訓練に参加して頂き、施設内や利用者様の様子などを知って頂く。	・訓練のお知らせをする段階でどのような部分を手伝って頂くのか分かりやすく明記する。 ・近隣に住む職員の家族にも参加声掛けをしていく。 ・広く地域の皆様に知って頂くためにも町会長様に避難訓練に参加して頂き、町内会の皆様に訓練の様子などを伝えて頂く。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。